

食文化創造都市にいがた推進計画 令和3年度進行状況報告書

令和4年10月 食と花の推進課

1. 本計画について

「食文化創造都市にいがた推進計画」は、食で選ばれるまち・にいがたを目指すため、本市の強みである食や食文化の素晴らしさに目を向けると共に、これらを産業の活性化や交流の拡大などにつなげることを目的に平成29年3月に策定された。

本計画の達成状況を委員へ報告、点検・評価頂く進行状況の報告は5回目となる。

2. 本計画の進行状況に関する参考指標について

本計画は事業ごとに達成目標を設定し、達成状況を調査しているが、計画全体の社会への影響等を確認するため参考指標を設定し、毎年度数値を調査することとする。

なお、参考指標は、関連計画の成果指標から選定した。

3. 令和3年度各施策別・評価別事業数について

計画策定時（平成29年3月）の事業数は86事業、令和3年度の食文化関連事業は59事業で各施策別の内訳は表1のとおりである。

また、評価別の事業数の内訳は表2のとおり、「A:目標を上回った」が19、「B:目標通り実施できた」が13、「C:目標を達成できなかった」が18、「D:実施しなかった」が6、「その他」が3となった。また、表3のとおり、D評価の事業は全て新型コロナウイルスの影響により中止となった。実施した事業を含めると、新型コロナウイルスの影響を受けた事業数は30となり、全体の51%となった。

目標を上回った、及び目標通り実施できた事業の割合は全体の54%となったが、前年の令和2年度と比較して10%増加し、令和元年度に近い割合となった。新型コロナウイルスの影響を受けている事業は51%と過半数を超え、前年を上回ったが、そのような状況下においても、感染拡大防止対策等を講じて実施した事業も見られた。

4. 評価及び所見について

本計画の指標となる事業は、食や食文化の普及に関するイベントが多く、昨年度同様、コロナ禍での通常どおりの実施は難しく、中止も多かった。その中でも、感染対策をした上で定員を減らして開催した事業や、セミナーや商談会のオンライン開催も見受けられ、SNSを活用した情報発信も行われており、非対面による事業展開も見られた。

実施している事業の中には目標に達しなかったものもあったが、各施策の進行管理を確認すると、新型コロナウイルスの影響を除けば、実施した事業の過半数は目標以上の実績を示していた。課題のある事業の多くも、課題を整理しつつ継続する予定であることから、目指す将来像に向けた取り組みが継続して進められているといえる。

表1 事業数(各施策別)

施策 No. (将来像-施策)	施策名	事業数 (計画策定時)	事業数 (H29実績)	事業数 (H30実績)	事業数 (R01実績)	事業数 (R02実績)	事業数 (R03実績)
将来像1 食を通じて「人」がつながり活気あふれる元気なまち							
1-1	食への理解の促進	15	13	15	12	11	9
1-2	食を生かした健康づくり	8	5	4	5	5	5
1-3	食文化の次世代への継承	13	9	7	7	7	7
将来像1 小計		36	27	26	24	23	21
将来像2 食を通じて「地域」がつながり新たな交流を生み出すまち							
2-4	地域の魅力の向上	11	11	11	9	9	9
2-5	ガストロノミー ツーリズムの構築	5	5	5	5	5	3
2-6	他都市への発信と 都市間連携	5	4	5	4	4	4
2-7	国際交流の促進	6	6	5	5	5	4
将来像2 小計		27	26	26	23	23	20
将来像3 食を通じて「産業」がつながり新たな魅力を創造するまち							
3-8	新たな挑戦への支援	16	14	12	12	12	13
3-9	さまざまな分野への 食の活用	7	7	5	5	5	5
将来像3 小計		23	21	17	17	17	18
事業数計		86	74	69	64	63	59

表2 令和3年度事業数(評価別)

評価	事業数
A:目標を上回った	19
B:目標通り実施できた	13
C:目標を達成できなかった	18
D:事業を実施しなかった (新型コロナウイルスで中止した場合を含む)	6
その他:実施したものの、新型コロナウイルスの影響で目標設定ができず、評価できない	3
事業数計	59

※施策1～9の合計値。

表3 年度・影響度別 新型コロナウイルス感染症影響事業数

一部影響（延期・一部中止・内容を再検討した等）*	24
中止（今年度の開催を完全に中止）	6 (=表2：D評価)

※ヒアリング結果に基づいて計上。

※複数施策にまたがる事業の重複は除く。

※*一部影響事業数は、内容を変更して実施した事業や延期した事業を含むため、表2：A評価・B評価・C評価・その他が混在している。D評価は含まない。

新型コロナウイルス感染症影響事業に関するヒアリング内容の一部抜粋

《対策を講じたもの》

- ・（鳥屋野地区公民館食関連講座）新型コロナ感染対策で全会期定員を8組とした。
- ・（新潟シティライド）エイドステーションでの密を避けるため時差受付・スタートとするなど新型コロナウイルス感染症対策をとり、食を提供した。

《手法を変更したもの》

- ・（西区のいもジェンヌ生産拡大及び商品開発支援）コロナ禍により人を集めたイベント等が実施できなかったため、メディア等を活用し実施した。
- ・（食と健康フォーラム）コロナ禍により、リアル開催からウェブ配信に変更
- ・（北区の収穫農園体験）令和3年度もコロナウイルス影響により開催を中止し、トマト講座に内容変更

《中止したもの》

- ・（保健所健康増進課の食生活改善推進委員養成講座・研修会）5月、3月に実施を予定していた研修会については、新型コロナウイルス感染症予防のため中止した。
- ・（秋葉区満願寺の稲架木を活用した観光交流事業）42世帯132人の参加申込があったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

《その他意見》

- ・（産業政策課の米と酒を中心としたプロモーション事業）新型コロナウイルスの感染拡大により、様々なプロモーション機会が失われた。今後はオンラインの活用も視野に入れてプロモーション方法を検討していく必要がある。
- ・（観光政策課の魅力発信・誘客推進事業）新型コロナウイルス感染拡大により宿泊業をはじめとした観光業が甚大な影響を受けており、その影響が長期化している。ウィズコロナ・ポストコロナ時代に即した情報発信を行う。
- ・（観光政策課の特産品・土産品の振興）会場の運営・設備費が高く、百貨店側が物産展をとりやめる傾向にあるうえ、令和2年3月から新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、物産展の中止が相次いでいる。

5. 各施策の進行状況

将来像1 食を通じて「人」がつながり活気あふれる元気なまち

施策1	食への理解の促進
主な取組	若手料理人の育成支援、新潟発わくわく教育ファーム推進事業など
進行状況	本施策では、地産地消や食育の推進など、市民の食への理解を深める取り組みを進めており、「アグリ・スタディ・プログラム」は全小学校での農業体験学習を実施し、地産地消の店も年々増加しているなど、市民の食への理解を深める取り組みが進められている。
目標の達成度	令和3年度の事業数9事業に対し、「A:目標を上回った」事業は3事業、「B:目標通り実施できた」事業は2事業、「C:目標を達成できなかった」事業は3事業、「D:事業を実施しなかった」事業は1事業だった。
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	A評価の事業のうち、「料理教室」は、目標値としていた実施回数を大きく上回った。C評価の事業「地産地消推進事業」は目標値の新規登録件数15件を下回ったものの、11件の新規登録があり、登録件数は着実に増加した。D基準の「浜で遊ぼう in 南浜大河の感謝祭 in 信濃川」は新型コロナウイルス予防上の懸念となったため事業を中止した。

施策2	食を生かした健康づくり
主な取組	新潟市健幸づくり応援食品認定制度、ちょいしおプロジェクトなど
進行状況	脳血管疾患および胃がんの原因の一つとされる食塩の過剰摂取に対応するため、「ちょいしおプロジェクト」、「食生活改善推進委員養成講座・研修会」を継続実施するなど、市民の食を通じた健康づくりの意識を高める取り組みが継続している。
目標の達成度	令和3年度の事業数5事業に対し、「B:目標通り実施できた」事業は2事業、「C:目標を達成できなかった」事業は3事業だった。

<p>目標を上回った事業、達成できなかった事業について</p>	<p>B 評価の事業「ちょいしおプロジェクト」では、令和 3 年度に新潟県事業を活用し、飲食店、販売店との連携による野菜ちょいしおメニューを 157,799 食提供し、減塩に関する情報を 20 回発信した。今後も飲食店の幅を広げる等の展開を想定している。</p> <p>また、C 評価の事業「農産物高付加価値化推進事業」では、目標としていた 4 件には届かなかったものの、新潟県に適した新規大豆品種の育成など、3 件について支援等を行った。今後も大学等と連携し、調査を実施していく見込みである。</p>
---------------------------------	---

<p>施策 3</p>	<p>食文化の次世代への継承</p>
<p>主な取組</p>	<p>地場産学校給食推進事業、レシピ集の活用など</p>
<p>進行状況</p>	<p>地場産給食の推進、料理教室やレシピ集の活用など、次世代へ食文化を継承する取り組みが進められている。更に新規事業として「発酵食 PR 事業」が実施され、中央区の伝統的産品である発酵食の魅力を再発見してもらい、次世代への普及促進と産業の振興を図る取り組みも行われた。</p>
<p>目標の達成度</p>	<p>令和 3 年度の事業数 7 事業に対し、「A: 目標を上回った」事業は 5 事業、「B: 目標通り実施できた」事業は 1 事業、「C: 目標を達成できなかった」事業は 1 事業だった。</p>
<p>目標を上回った事業、達成できなかった事業について</p>	<p>A 評価の「レシピ集の活用」では、例年に引き続き、食育・花育センターの食育ミニ体験でレシピ集掲載の「けんさ焼き」と「ぽっぽ焼き」作り体験を実施した。今後もレシピを活用した取り組みを検討する。「農業活性化研究センターにおける研究」は、大学との共同研究数が目標の 5 件を大きく上回る 9 件となり、今後も共同研究を継続する見込みである。</p> <p>C 評価の「地場産学校給食推進事業」では、供給側と現場での認識の違いや供給体制の課題など地域や施設ごとに抱える問題が異なることから、地場産率の向上のために統一した方策がとりにくい状況が続いている。引き続き関係者と連携しながら、現状の課題に対して新たな施策を検討していく。</p>

将来像 2 食を通じて「地域」がつながり新たな交流を生み出すまち

<p>施策 4</p>	<p>地域の魅力の向上</p>
<p>主な取組</p>	<p>農家レストランの設置、農業体験観光ツアーなど</p>
<p>進行状況</p>	<p>各地域の特産品や食産業の PR、食を生み出す背景となる景</p>

	<p>観を活用した体験事業などを継続して行ってきたが、新型コロナウイルスの影響により、中止となった事業もあった。</p>
目標の達成度	<p>令和3年度の事業数9事業に対し、「A:目標を上回った」事業は2事業、「B:目標通り実施できた」事業は3事業、「C:目標を達成できなかった」事業は1事業だった。「D:事業を実施しなかった」事業は3事業だった。</p>
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	<p>A 評価の「新潟の食と花のPR事業」では、食と花のPR情報をSNSを中心に発信した。</p> <p>B 評価の「キテ・ミテ・キタクとまとキャンペーン」では、上記PRを実施したものの、効果が限定的との課題があり、今後は効果的で安価なPR方法を検討する。</p> <p>C 評価の「農家レストランの設置」については新規開設の希望者が現れなかった。</p> <p>D 評価の事業に関しては収穫体験等であり、新型コロナウイルスの影響で実施が困難となった。</p>

施策5	<p>ガストロノミーツーリズムの構築</p>
主な取組	<p>観光客おもてなし態勢促進事業 など</p>
進行状況	<p>食と農と様々な地域資源を結び、地域の魅力を一体的に体験できる新たな観光形態「ガストロノミーツーリズム」の構築を図るため、魅力発信・誘客推進事業などに取り組んできたが、新型コロナウイルスの影響により、目標設定が困難となる事業もあった。</p>
目標の達成度	<p>令和3年度の事業数3事業に対し、「C:目標を達成できなかった」事業は1事業、新型コロナのために評価できなかった事業は2事業だった。</p>
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	<p>C 評価の「米と酒を中心としたプロモーション事業」は本市の食文化のPRを通じたプロモーションを展開する予定だったが、新型コロナウイルスの影響により、プロモーションの機会が失われた。今後はオンラインの活用も視野に入れて方法を検討していく。</p> <p>「観光客おもてなし態勢促進事業」、「魅力発信・誘客推進事業」は新型コロナウイルスの影響により、評価できなかった。</p>

施策6	<p>他都市への発信と都市間連携</p>
-----	----------------------

主な取組	特産品・土産品の振興、特産農産物のPR・情報発信など
進行状況	他都市へ向けた食の魅力のプロモーションや市産農産物などの販路拡大、他都市と連携した食の販路拡大・魅力発信に取り組んでいる。新型コロナウイルスの影響により、目標設定が困難となる事業もあった。
目標の達成度	令和3年度の事業数4事業に対し、「A:目標を上回った」事業は2事業、「C:目標を達成できなかった」事業は1事業、新型コロナのために評価できなかった事業は1事業だった。
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	A評価の「特産農産物のPR・情報発信」では、コロナ禍により人を集めたイベント等が実施できなかったため、メディア等を活用し実施した。 新型コロナのために評価できなかった「特産品・土産品の振興」では、百貨店側が物産展を取りやめる傾向にあるうえ、新型コロナウイルス感染症対策のため、予定していた物産展の一部が中止となった。

施策7	国際交流の促進
主な取組	食の国際見本市「フードメッセ in にいがた」など
進行状況	インバウンドの拡大、農水産物及び食品輸出を狙い、海外向けプロモーションや商談会、「省と花の世界フォーラムにいがた」の開催などを開催した。新型コロナウイルスの影響により、オンライン、もしくはリアルとオンラインのハイブリッドで実施するなど、事業の手法を工夫しながら、食分野での本市のさらなる拠点化に取り組んでいる。
目標の達成度	令和3年度の事業数4事業に対し、「A:目標を上回った」事業は1事業、「B:目標通り実施できた」事業は1事業、「C:目標を達成できなかった」事業は2事業だった。
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	A評価の「フードメッセ in にいがた」は、来場者目標を達成し、今後は2019開催規模への回復を目指す。 B評価の「食の新潟国際賞」は第7回食の新潟国際賞開催に向けて、最終候補者選考を実施した。 C評価の事業のうち、「新潟の食輸出商談会」については、オンラインでの商談会を開催したものの、感染拡大がみられる国もあり、目標とする販路拡大支援企業・団体数には達しなかった。

将来像3 食を通じて「産業」がつながり新たな魅力を創造するまち

施策8	新たな挑戦への支援
主な取組	食のマーケットイン支援事業、6次産業化サポート事業など
進行状況	技術開発補助事業などにより、食に関わる事業者の商品開発、販路拡大などの取り組みを支援している。国家戦略特区による規制緩和については新たな設立企業等はなかったものの、新規規制緩和事項の提案を行う予定である。
目標の達成度	令和3年度の事業数13事業に対し、「A:目標を上回った」事業は4事業、「B:目標通り実施できた」事業は4事業、「C:目標を達成できなかった」事業は5事業だった。
目標を上回った事業、達成できなかった事業について	A評価の「技術開発補助事業」は、補助金採択件数は減少したものの、支援事業者が設定した目標の達成割合は100%となり、食品製造業者などが抱える課題の解決に貢献した。 B評価の「食文化創造都市推進会議の運営支援」は、10件のプロジェクトを採択した。 C評価の「農業分野の規制緩和活用」は、新たな農業関連事業に取り組もうとする事業者の相談支援を行ったものの、新規の企業参入等が見られず、今後、規制緩和事項の提案を行う予定である。

施策9	さまざまな分野への食の活用
主な取組	農・福連携事業など
進行状況	本市の豊かな食を支える農業を様々な分野へ活用するほか、文化芸術、スポーツといった食以外の分野においても食の活用を進め、食分野の魅力と発信力の向上を図ってきたが、新型コロナウイルスの影響により、中止もしくは目標設定が困難となる事業があった。
目標の達成度	令和3年度の事業数5事業に対し、「A:目標を上回った」事業は2事業、「C:目標を達成できなかった」事業は1事業、「D:事業を実施しなかった」事業は2事業だった。

<p>目標を上回った事業、 達成できなかった事 業について</p>	<p>A 評価の「新潟シティライド」は、コロナ禍での開催となったが、エイドステーションでの密を避けるため時差受付・スタートするなど、感染症対策を講じてエイド食を提供した。</p> <p>C 評価の「新潟シティマラソン」は、代替イベントを開催したものの、エイド食の提供は困難となった。</p> <p>D 評価の 2 事業に関しては、新型コロナウイルスの影響で実施を断念した。</p>
---	--